

ドイツにおける高等教育改革

ボローニャ・プロセスの進行状況と
学生からの視点を中心に

報告者: OFIASインターン 藁科智恵

ドイツの学校制度

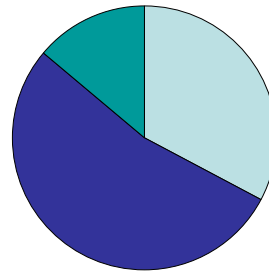
学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年齢	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
学校	基礎学校				本科学校						職業訓練		
					実科学校								
					ギムナジウム								
	総合学校												
	シュタイナー学校												

↑
アビトゥーア
↓

ドイツの高等教育

- 学習の自由 (Lernfreiheit)
- 基礎学習、専門学習
- 大学教育の修了
- 「大学大綱法」
(1975年)

□ 総合大学、教育
大学、神学大学
等-124
■ 専門大学-202
■ 音楽、芸術大学
-53



ドイツの大学の構成

※2005-2007 Germany National Report. p.5より
<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/GermanyNationalReport.doc>

3

高等教育制度改革の背景

- 制度の財政逼迫、
欧州全体での科学・教育分野における協調の高まり
→90年代半ばに動きが強まってきたが、
60年代から改革の議論

その背景として...

- 財政面での改革の必要性
- 社会的ニーズの変化
- 国際化に適合させていく必要性

4

90年代半ば以降の 高等教育制度改革

- 大学財政システムの変化
(成果主義、授業料の導入)
- 大学の自治権の強化
- 学力評価システム
- 国際化
(英語プログラム、ダブル・ディグリー等の導入)
- ボローニャ・プロセス

5

ボローニャプロセスの進行状況

- 2サイクル学位制
「置く事ができる」→2サイクル制
- 単位互換性
ECTS、ディプロマ・サプルメント導入
- 質保証
「アクレディテーション審議会」発足
- 将来の課題
 - 社会的側面の発展
 - 博士課程プログラムの強化

6

学生の視点から

- 「在学期間が短くなるがカリキュラムがそれに伴っていない。」(ケルン大学在学学生)
- モジュール制やECTSを採用しているが明確な定義づけがなされていない。
(ESIB※1発行、Black Book※2より)
⇒新カリキュラムが定まっていない

※1 The National Unions of Students in Europe

※2 The Black Book of the Bologna process. p.9.

http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/02-ESIB/0505_ESIB_blackbook.pdf

7

新カリキュラムに関する見解1

- 国家試験を含むコース

→ 2サイクル制への切り替えにおいては、基礎固めがまだ必要

※2005-2007 Germany National Report. p.26-28.

<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/GermanyNationalReport.doc>

8

新カリキュラムに関する見解2

- 3年間の学位コースにおける長期海外滞在
→カリキュラムが体系的に統合されている場合にのみ可能
→**学士、修士レベルでの海外での学習期間を認めるか否か**
⇒カリキュラムの体系性

※2005-2007 Germany National Report. p.26-28.

<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/GermanyNationalReport.doc>

ドイツの状況

■ 2005 年からの重要な発展

- ・ 2 サイクル学位制度導入に向けての進歩
- ・ 「ドイツ高等教育学位の保証枠組み」を採用
- ・ 認証と質保証の手続きを発展させた
- ・ リスボン協定の批准後、立法のための準備
- ・ 2 サイクル制に登録する学生の数の増加
- ・ 第 1 サイクル、第 2 サイクルの多くにおいて、ETCS とディプロマ・サプルメントが導入されている。
- ・ HRK のウェブサイトで、具体的なディプロマ・サプルメントの例が閲覧可能。

学位システム		
1. 2 サイクル制の導入	3	2006/2007 に全学生の 30～59%が、登録
2. 次のサイクルへのアクセス	5	すべての第一サイクルの証明書がいくつかの第二サイクルのプログラムにつながっていて、すべての第二サイクルの証明書によって少なくとも 1 つの第 3 サイクルへ、大きな問題なしにつながっている
3. 国による評価枠組みの導入	5	EHEA (欧州高等教育圏) のための包括的評価システムと一致した国の評価システムが実行されている。
質保証		
4. EHEA における質保証のための規準、指針の国レベルでの導入	5	EHEA における質保証のための規準、指針と一致した国の質保証システムが、完全に使用可能。
5. 外部の質保証システムの発展段階	5	完全に機能している質保証システムが国のレベルで実施されていてすべての高等教育に適用される。プログラムや機関の評価は、内部評価、外部のレビュー、結果の公表、3 つの要素を含む。さらに、EHEA における質保証のための規準、指針に従って、国の質保証代行機関のピアレビューのための手続きが確立されている。
6. 質保証への学生の参加	5	学生が 4 つの段階において参加する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 質保証のための国の機関の管理において ・ 高等教育機関もしくはプログラムの外部のレビューにおいて: 専門家チームの中で、オブザーバーやメンバーとして又は決議の段階で ・ 外部レビューの間の協議において ・ 内部評価において
7. 質保証における国際的参加の段階	5	<p>国際的参加が 4 つの段階において行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質保証のための国の機関の管理において ・ 国の質保証エージェンシーの外部評価において ・ 高等教育機関、プログラムの外部レビューのためのチームの中のメンバーやオブザーバーとして ・ ENQA のメンバーであるか、他の国際的ネットワークのメンバーである。
学位や学習期間の認識		
8. 学位保証の導入の段階	3	<p>2007 年時点で、学位保証が、EU/CoE/UNESCO の学位保証のフォーマットにおいて、そして広く話されているヨーロッパ言語において、いくらかの学生に、またはいくつかのプログラムにおいて発行される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要求に応じて ・ 無料で
9. リスボン会合での認識に関する協定の原則の国のレベルでの導入	1	<p>協定は批准されたが法律化が審議されていない。もしくは、協定が批准されていない。</p>
10. ECTS の導入の段階	3	<p>2007 年時点で、50-74%の高等教育プログラムにおいて、ECTS を用いて、または単位の移動や蓄積を可能とする完全に比較可能な国の単位システムを用いて、単位が割り振られている。</p>
生涯学習		

1 1. 事前学習の認識	5	1) 高等教育プログラムへのアクセス、2) いくつかのプログラムの要求からの免除や認証への単位の割り振りのための基礎として事前学習の国の指針がある。
ジョイント・ディグリー		
1 2. ジョイント・ディグリーの確立と認識	5	法律化によってジョイント・プログラムやジョイント・ディグリーの確立が可能になり、奨励されている。多くの高等教育機関がすでにジョイント・プログラムを確立していて他の国の高等教育機関とさまざまなレベルで協働で国に公認された学位を授与している。

■ 将来の課題

- ・ 2 サイクル制の導入、学士号や修士号の受容の促進
- ・ ECTS とディプロマサプレメントの導入
- ・ 高等教育保証書の他の教育分野との接続を含む枠組みの発展
- ・ 高等教育機関における質管理のさらなる発展
- ・ 構築された博士課程のプログラムの強化。と同時に博士課程での研究のための他の道も保持する。
- ・ 高等教育の社会的側面の発展。

ⁱ Bologna follow-up group, Stocktaking working group 2005-2007. “Bologna Process Stocktaking London 2007.” pp.1-54, 64.
<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/6909-BolognaProcessST.pdf>

ドイツにおける 2 サイクル制導入の様子

2 サイクル制が導入された課程の数の変化¹

学期	課程	内			
		バACHEラー	マスター	計	割合 (%)
04 夏学期	11,183	951	1,173	2,124	19,0
04/05 冬学期	11,097	1,253	1,308	2,561	23,1
05 夏学期	11,286	1,453	1,481	2,934	26,0
05/06 冬学期	11,186	2,138	1,659	3,797	33,9
06 夏学期	11,283	2,317	1,777	4,094	36,3
06/07 冬学期	11,492	3,075	2,113	5,188	45,1
07 夏学期	11,803	3,377	2,283	5,660	48,0

2 サイクル制に登録している大学生数の変化²

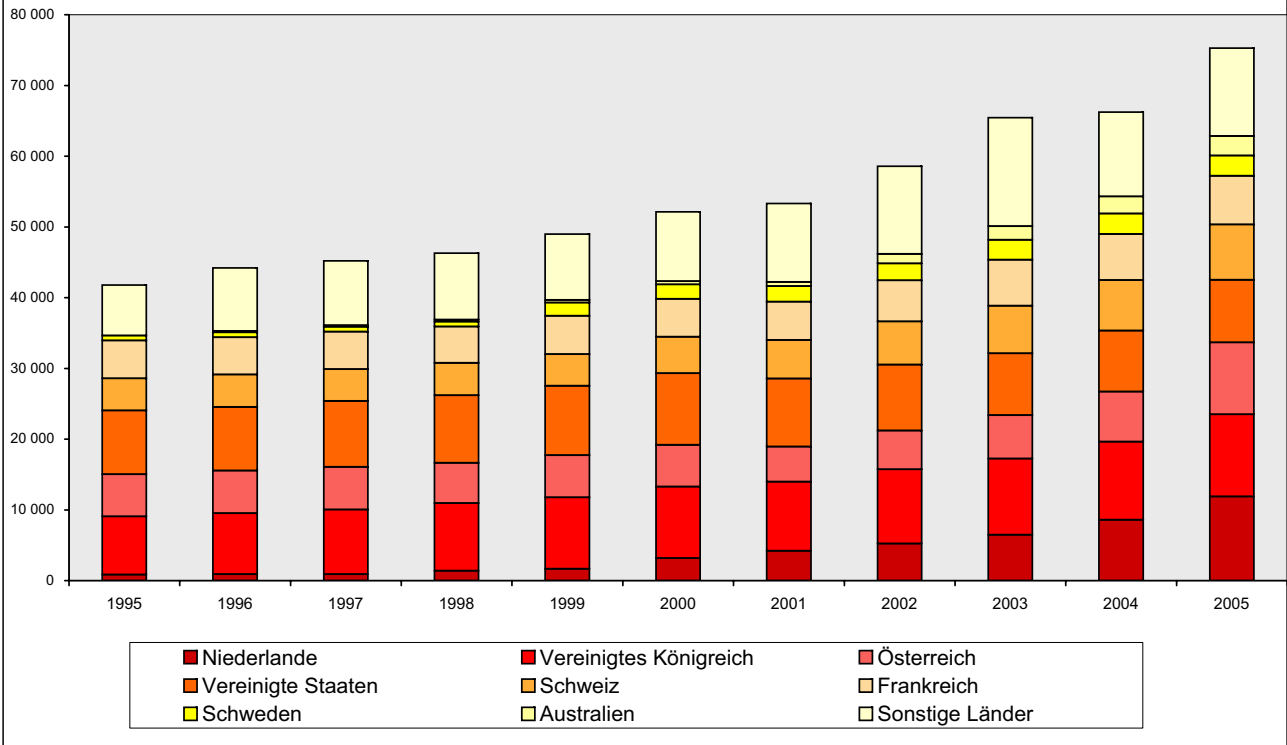
報告期	大学生数	内			
		バACHEラー	マスター	計	割合 (%)
99/00 冬学期	1,770,489	4,122	2,580	6,702	0,4
00/01 冬学期	1,798,863	12,409	6,536	18,945	1,1
01/02 冬学期	1,868,229	27,008	11,935	38,943	2,1
02/03 冬学期	1,938,811	48,338	18,623	66,961	3,5
03/04 冬学期	2,019,465	79,985	27,764	107,749	5,3
04/05 冬学期	1,963,108	118,841	35,687	154,528	7,9
05/06 冬学期	1,985,765	202,802	46,233	249,035	12,5

※2006/07 年冬学期にドイツ全国の大学に在籍した学生数は、198 万人、このうちバACHEラー課程の在学学生数は前年比 63%増の 32 万 9800 人、マスター課程は 20%増の 5 万 5700 人。

¹ Statistisches Bundesamt Deutschland. “Statistische Daten zur Bachelor- und Masterstudiengängen Sommersemester 2007.” p.7.

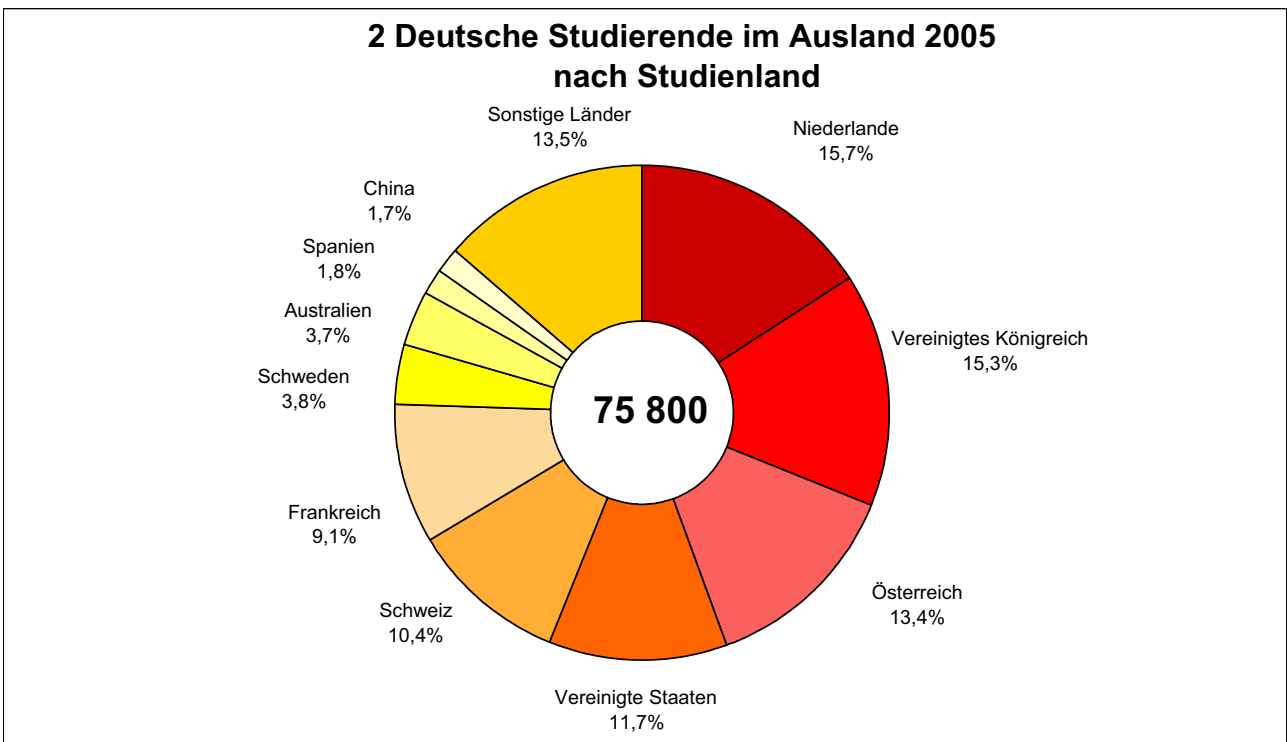
² Ibid, p.18.

1 Deutsche Studierende im Ausland 1995 - 2005



22

2 Deutsche Studierende im Ausland 2005 nach Studienland

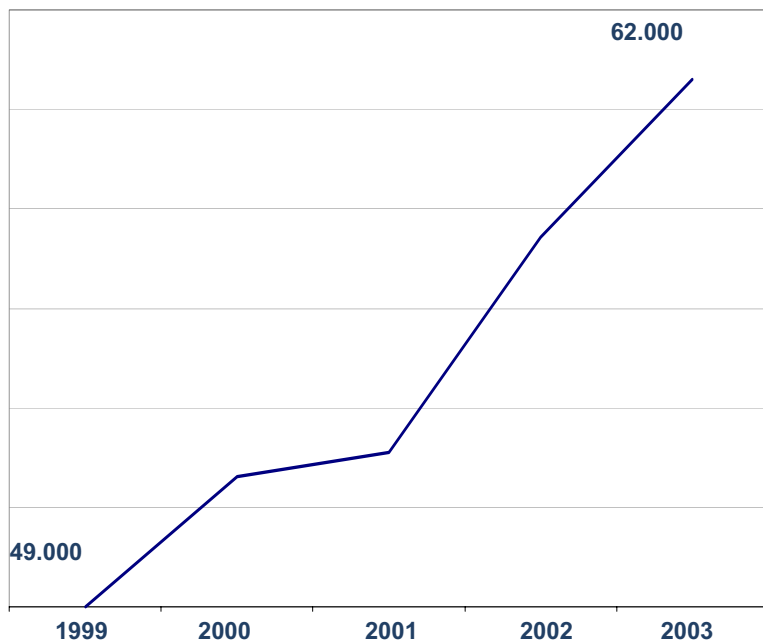


23

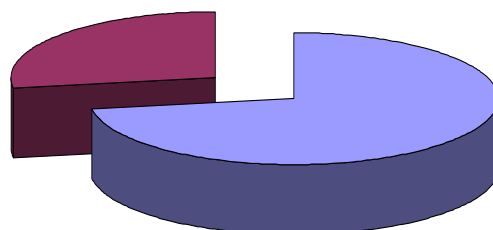


II. International Mobility in Germany and Europe

German Students abroad: How many?



35% of all Students after 3 years



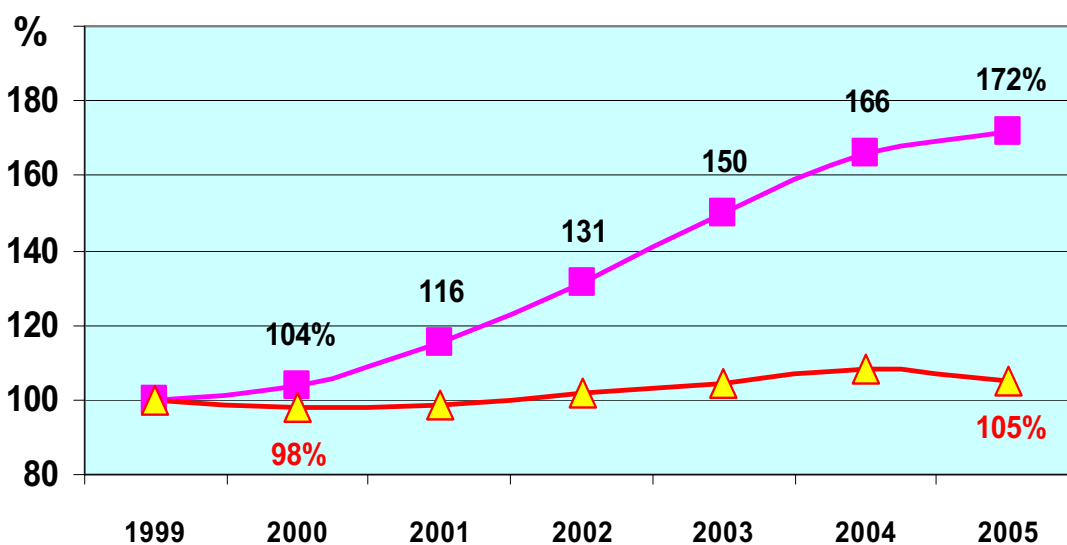
Studies: 13,5%
Internship: 13,9%
Language Courses: 7,5%

Aim: 50%



II. International Mobility in Germany and Europe

International Students in Germany: How many?



International Students (187.000)

German Students (1.720.000)

Aim: 10% international students in Germany

In addition there are 60.000 Students with foreign passports but who are permanent residents in Germany and have graduated at a High School in Germany (so called "Bildungsinländer").

参考資料

邦語資料

井上英巳 「ドイツ学校制度図解」 <http://www.euroassist.de/germany/schoolsystem.htm>

太田明 (2007) 「ドイツの大学改革と課題」『大学と教育』 No.45 pp.50-64.

慶応義塾大学教養研究センター「慶應義塾大学教養研究センター公開セミナー：ヨーロッパの大学改革と日本の大学」 2005.

<http://www.hc.keio.ac.jp/lib-arts/journal/cla1.pdf>

ドイツの実情

<http://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/jp/education-and-research/main-content-07/research-outside-the-universities.html>

吉川裕美子 (2003) 「ドイツの成績評価—大学等質性のメカニズム—」『IDE 現代の高等教育』 vol.449 pp.31-36

———. (1999) 「ドイツ高等教育における単位制度導入の動向—学位制度と学修課程の検討から—」 大学評価・学位授与機構研究紀要『学位研究』 第11号 pp.75-89

欧語資料

Bode, Christian. “International mobility and cooperation: The Impact of Bologna.”

Deutscher Akademischer Austausch Dienst. (German Academic Exchange Service) http://www.daad.de/presse/de/int_co-operation_mobility_GS.pdf

Bologna follow-up group, Stocktaking working group 2005-2007. “Bologna Process Stocktaking London 2007.”

<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/6909-BolognaProcessST.pdf>

Bundesministerium für Bildung und Forschung, Kultusminister der Länder in der Bundesrepublik Deutschland. 2007. “2005 to 2007 National Report for Germany.”

<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/GermanyNationalReport.doc>

Hochschulrektorenkonferenz. “Diploma Supplement.” pp.269-71.

http://www.hrk-bologna.de/bologna/de/download/dateien/DS-pub_internetversion.pdf

National Unions of Students in Europe, The. “The Black Book of the Bologna process.”

http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/02-ESIB/0505_ESIB_blackbook.pdf

Statistisches Bundesamt Deutschland. “Deutsche Studierende im Ausland-Statistischer Überblick 1995-2005, Ausgabe 2007.” pp.22-23.

<https://www-ec.destatis.de/csp/shop/sfg/bpm.html.cms.cBroker.cls?cmspath=struktur,vollanzeige.csp&ID=1020924>

———. “Statistische Daten zur Bachelor- und Masterstudiengängen Sommersemester 2007.”